

里山基本計画の策定に向けた

里山活動を考えるワークショップ ニュース



第4号

みなさん こんにちは！

秋も深まり、所々で紅葉が見ごろをむかえ、朝晩は日に日に寒くなり、段々と冬が近づいてきました。

11月8日（木曜日）には長年、長久手市の里山活動などにも関わって下さっている里山アドバイザーの眞弓浩二先生を講師にお招きし、『里山の保全・活用のための活動を考える』をテーマにご講演していただきました。



講演会『里山の保全・活用のための活動を考える』を開催

■日 時：平成30年11月8日（木曜日）19時から21時

■場 所：平成こども塾 丸太の家

■参加者：36名

■プログラム：

① 開会

- ・講演会プログラムの説明と講師のプロフィールの紹介

② 講演会

- ・里山アドバイザー 眞弓浩二先生による「里山の保全・活用のための活動を考える」講演

③ 意見交換

- ・眞弓先生への質問などの意見交換

① 開会・趣旨説明

参加者のみなさんに平成こども塾丸太の家に集まっていただき、長久手市みどりの推進課の職員から、里山基本計画の策定に向けた講演会

『里山の保全・活用のための活動を考える』の開催の趣旨、プログラム、さらに本日の講師の眞弓先生のプロフィールを紹介させていただきました。



② 講演会

全国各地の里山保全活動を実践的にに関わり、長久手市の里山についても熟知している、里山アドバイザーの眞弓浩二先生を講師に、「里山の保全・活用のための活動を考える」をテーマにご講演いただきました。

講演では、現代における里山の役割、放置され荒廃する里山林の状況、名古屋市における森づくり（里山保全）活動の事例などを紹介いただきました。また、最後には長久手市における里山の保全管理の仕組みについてご提言いただきました。



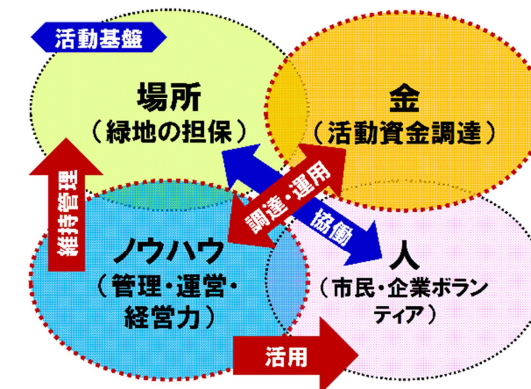
里山の保全・活用のための活動を考える！

1. 里山について
2. 現代の里山の役割
 - (1) 自然体感・体験・学習・レクリエーション機能
 - (2) ヒートアイランド抑制機能
 - (3) 生物多様性保全機能
3. 放置され荒廃する里山林
 - 植生遷移の進行
 - 外来生物の侵入・拡大
4. 事例紹介：なごやの森づくり（里山保全）活動
5. 長久手市の里山の保全管理のしくみを考える
 - (1) 長久手市里山プランから
 - (2) 里山の保全管理、これまでとこれから
 - (3) 持続可能な活動資金財源の例
 - (4) 持続可能な里山活動のための里山マネージメントの必要性
6. 里山保全活動を支援推進する管理・運営の民営化事例
森の合言葉（行ってみよう！森の学校より）

長久手市における里山の保全管理のしくみ（要約）

- 長久手市の里山を市民共有の環境財産にしていくことが必要です。
- 里山林の保全には、これまでは活動基盤となる「場所」と活動を行う「人」だけでしたが、これからは活動資金となる「金」の調達と、人の活用、場所の維持管理など、管理・運営・経営する「ノウハウ」を持つマネジメント力が必要です。
- そのために、横浜市のみどり税のような形で里山を買い取る資金を集めたり、里山保全管理活動をNPOや企業などの民間で専門的に運営・管理する組織づくりや専従スタッフの確保が必要不可欠です。

里山林の保全管理のしくみ（これから）



③ 意見交換

講演後、参加者から様々な質問が眞弓先生へ投げかけられ、丁寧にご回答いただきました。

質問（一部抜粋）	回答
Q: 複数の里山地権者の合意形成はどのようにまとめるべき？	A: 市全域で行うのは難しいので、合意できそうな土地から進め、徐々に広げていくのが良い。
Q: 保全活動を長く続ける心得はありますか？	A: 気負わない、責任を背負わないこと。
Q: 里山の風景を守るためにはいくら予算が必要？	A: 無限。是非とも横浜市のようなみどり税を。
Q: 活動場所、資金、人、ノウハウをマネジメントするには誰が事務局を行うべきか？	A: 場の管理ノウハウを持つ造園屋さん、客を集めるイベント会社、経営・まちづくり・交渉などができるコンサルの組織化ができると良い。
Q: 里山のデザインで、まず一步はどこまですべき？	A: 市民に良い里山を見せることができるようにする

次回のご案内

◆第3回ワークショップは、11月22日（木曜日）19時より、平成こども塾丸太の家で、前回検討した活動内容に基づきながら里山拠点施設に必要な機能などについて考えます！

【お問い合わせ先】

長久手市みどりの推進課
電話：0561-56-0552